

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 64 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時： 2025 年 7 月 18 日 (金) 10 時 00 分～11 時 30 分
2. 場所： WEB 会議 (Webex を使用)
3. 出席者 (順不同、敬称略)
(出席委員) 福元主査、石川副主査、田村幹事、上田、椋木、工藤、小松原、坂下、大杉、鈴木、
田中 (岸下代理)、新崎、丸、山本、横田、脇 (16 名)
(欠席委員) 柳原
(常時参加者) 出雲、満田、上市、前田、山本、山田、中浜、柏木、東出、菅原、野村、駒月、
宇田 (13 名)
(欠席常時参加者) 土田、古田、森本、宮田、美濃、山崎 (6 名)
(オブザーバー) 前川、酒井、佐藤 (由)、澁谷 (以上、常時参加者候補)

4. 【配付資料】

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| F9Ph2SC64-0 | 第 64 回 LLW 廃棄体製作・管理分科会議事次第 |
| F9Ph2SC64-1 | 専門部会・分科会人事シート LLW 廃棄体製作・管理分科会 |
| F9Ph2SC64-2 | 第 63 回 LLW 廃棄体製作・管理分科会議事録案 |
| F9Ph2SC64-3 | 大型角型容器形態編標準案の検討状況 |
| F9Ph2SC64-4 | 大型角型廃棄体標準検討作業会の論点 |
| (参考資料) | 2025 年度倫理教育資料の利用について |

5. 議事

(1) 出席者の確認

田村幹事から、16 名が出席しており、分科会成立に必要な委員数 (12 名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 人事について

田村幹事から、F9Ph2SC64-1 のとおり報告があり、以下の委員の選任が決議された。

- ・田中 昂 (日本原子力発電株式会社)

また、新たに下記の常時参加者の登録が承認された。

- ・酒井 宏隆 (原子力規制庁)
- ・佐藤 由子 (原子力規制庁)
- ・澁谷 憲悟 (原子力規制庁)
- ・前川 伸展 (日本エヌ・ユー・エス株式会社)
- ・稲継 成文 (関電パワーテック)
- ・山崎 篤人 (関電パワーテック)
- ・阿部 正史 (原燃輸送株式会社)

また、委員 1 名 (岸下) の退任、常時参加者 5 名 (松本、内田、山崎、森本、前田) の登録解

除を確認した。

(3) 前回議事録案の確認

田村幹事から、F9Ph2SC64-2に基づき、前回議事録案について説明があった。本分科会において追加コメントは無く、承認された。

(4) 大型角型容器形態編標準案の検討状況について

委員から、F9Ph2SC64-3に基づき、標準案の検討状況について説明があった。

前回分科会でのコメント対応表については概ね了承されたが、回答の一部である廃棄体製作フローの例は記載内容の整合性や分かりやすさの観点で更なる検討が必要となった。

具体的には、廃棄体製作フローには実施する行為と判断基準を明確に書き分けて再整理する必要があることが確認された。

なお、今回提示している廃棄体製作フローは、附属書Yの一例をしているものであるため、今回のご意見も踏まえて再検討し、次回以降で附属書Xを含めた全体の流れを説明した後、個別の議論を行うことになった。

主な質疑は以下のとおり。

(C) 今回説明した附属書Yの廃棄体製作フローは例示であるので、今後あらためて全体を説明した上で議論してほしい。

(C) 1 ページ目の2次分別のところ、ひし形の判断項目となっているが、判断の枝分かれがないのが分かりにくい。また、ページによってフローの流れが左右逆の表現になっているので整合させる必要がある。2 ページ目の固型化材料等の準備は、放射性廃棄物の収納につながっているが、1 ページ目では固型化工程につながっているので整合させる必要がある。

(A) 記載方法は検討して修正する。

(C) 1 ページ目。収納1の説明で、「位置」という説明があるが、説明内容は「条件」のこと。記載の修正が必要。

(A) 実態が分かるよう表現を修正する。

(C) 2 ページ目と3 ページ目。「対象放射性廃棄物の条件の確認」が「分別」の中に示している箇所と「分別」の外に示している箇所がある。整合させる必要がある。

(A) 修正する。

(C) 大型角型廃棄体の製作フローの中で、ドラム缶の話が出てくる。本標準の適用範囲をして明確にしておく必要がある。「分別」の前に大型角型廃棄体用と限定されているのか。大型の廃棄物でも制限物質として除去したものは溶融等の処理後ドラム缶で製作するとなっている。

(A) ドラム缶廃棄体は別の標準で規定している。これが分かるよう記載を追加する。

(Q) 質問として。固型化工程で管状や塊等の廃棄物区分けがされているが混在する可能性はないのか。

(A) 事業者からは混在させないと聞いている。

(C) 例えば図Y. 1について。解体で発生する廃棄物全体があつて、そこからどのような行為で廃棄体化していくのか、体系的な製作フローが必要ではないか。実施する行為や出来上がった廃棄体種類が同じ四角枠の中に混在しており、判断基準のひし形からの分岐説明も分かり

にくい。

(A) 検討して再整理する。

(A) 上流から下流まで全体の説明が必要と思っている。初めての参加者も居られるので今後は丁寧に説明していく。

(C) 学会標準は議論に参加していない方が利用することを前提に策定するもの。廃棄体製作フローは説明を読まなくても分かるようにしてほしい。

(C) 図Y. 1で質問。アルミを除去した後、熔融しないケースもある。この場合は、保管廃棄せざるを得ないのでその流れも記載してほしい。また、小型混練固化したものは大型容器に収納するように読める。

(A) 実態を調査した上で対応する。

(5) 大型角型廃棄体標準検討作業会の論点について

委員から、F9Ph2SC64-4に基づき作業会で議論したい技術根拠の整理状況について説明があった。具体例として、固型化に係る実規模実証試験に至る個別要素の解析結果等について概要報告があった。今後、作業会で議論を行う中で必要なデータを取りまとめていく。

主な質疑は以下のとおり。

(C) 作業会で提示する技術根拠は公開が必要ではないのか。

(A) 非公開情報でも必要があれば作業会で提示し議論を行いたい。その後、公開用に整理していく予定である。

(C) 標準に引用しているのは「実規模試験の結果」と認識。その前段の基礎試験や解析は直接的な標準の技術根拠とは位置付けていない。

(A) 途中で議論に参加されている委員のために、今回参考としてご説明している。

(C) 3ページで。廃棄物形状 **25mm** 球体の試験結果を基に標準における廃棄物最小寸法を **40mm** としたものと考えられるが、標準に反映している技術根拠がどれに当たるのか分かりにくい。

(C) いろいろな試験結果があり、それらのデータから標準の規定値にする際の考え方を明確にしておく必要がある。

(A) ご意見を踏まえて検討したい。

(6) その他

田村幹事から、参考資料に基づき 2025 年度倫理教育の受講依頼があった。7/25 (金) までに受講いただき、実績や感想を幹事まで報告することになった。

6. 次回の予定

別途、調整する。

以 上